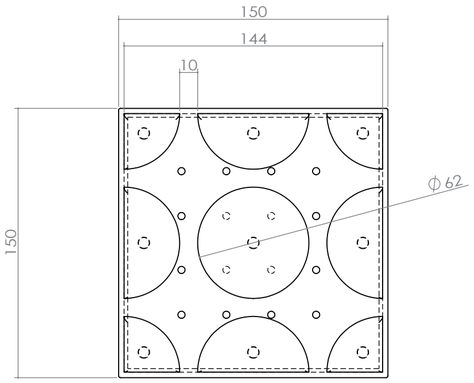
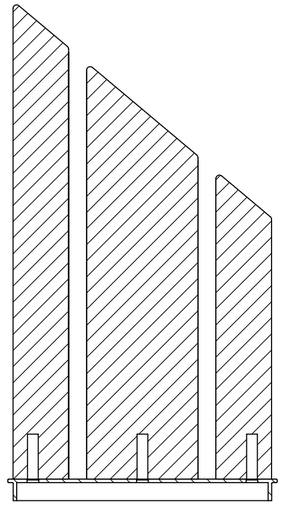
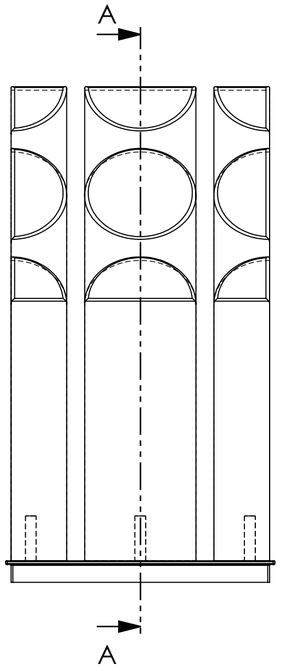
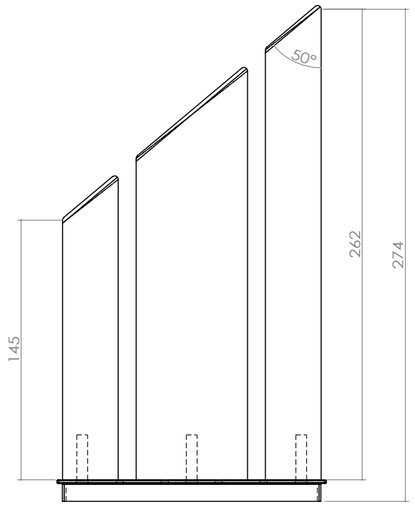




断面図 A-A



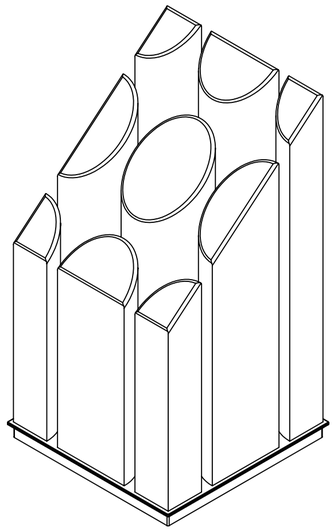


京都北山丸太は、まっすぐで滑らかな幹と、均一で美しい年輪を持つ。本作品は、一本の北山杉を起点とし、木材に過度な加工を施すことなく、分割と再構成によって新たな形態を生み出した。

一本の木を切り分けることで、ひとつの円形から半円や四分の一円など、異なる形態が生まれる。それらを再び組み合わせることで、木材の連なりに変化を与えた。

底部には金属製の水切りトレーを用いて木材を垂直に固定し、奥から手前に向かって変化する斜めの切断面によって、木材の連なりにリズムを生み出した。





KUMIA
Umbrella Stand

一本の北山杉を、
分割と再構成によって。

木材を分割し、再構成することで、木と木のあいだに新たな「間」が生まれる。この「間」は、雨傘を受け止める機能的な空間となる。

斜めに切り出された面に、均一で美しい北山丸太の年輪が現れる。その木々のあいだに傘を差し込むと、まるで花を器に生けるような風景が生まれる。北山杉によって構成されたこの傘立ては、単なる雨傘を収納する家具ではなく、植物を受け止める器のような存在として、ひとつの彫刻のように建築空間に溶け込む。

傘立てが置かれる場所は、室内と室外をつなぐ境界にある。本作品は、傘を収納しながら、その形態と人の動きや視線によって、室内と室外を無意識のうちにゆるやかに区別する。木で空間を仕切るのではなく、木と木のあいだに生まれる「間」によって、空間に境界をつくり出す。







